

臨床化学分析装置の測定前確認事項の
意識調査 その3 ～測定前確認とサーベイ結果と
の関係性～

○八賀孝浩 吉川康弘 吉田俊彦 長谷健二
(臨床化学検査研究班)

【目的】

現在、臨床化学成分の測定には、色々な汎用自動分析装置が用いられている。その性能はユーザの要望に呼応して向上しており、検体をセットし、ボタンを押すだけで、迅速に検査データを得ることができる。しかし、信頼性の高いデータを得るためには、ユーザが日々分析機器の状態や試薬・キャリブレーションの管理、管理血清の状態など様々な要因を把握する必要がある。今回、2009年千葉県臨床検査技師会サーベイ実施時に行った測定前確認事項のアンケートの集計結果を用い、各施設における測定前の確認実施状況と、サーベイ結果への影響について報告する。【対象と方法】

2009年千葉県臨床検査技師会サーベイ臨床化学部門において『測定前確認事項について』と称してアンケートを行い、分析機器・試薬・キャリブレーションの3部門について調査した。

【まとめ】

今回の調査でサーベイに参加して頂いた施設の測定前確認の実施状況が把握できたが、この実施状況が必ずしもサーベイ結果に影響するとは限らなかった。多忙な日常業務の最中に分析装置のメンテナンスや試薬の調整・校正の実施等を行うことは大変な作業である。信頼性の高いデータを得るために分析装置・試薬・キャリブレーションについて、日々管理する努力が必要となってくる。

今後も千臨技サーベイを通じて、サーベイ参加施設に有用な情報提供を心がけていきたい。

新松戸中央総合病院 検査科 047-345-1116